

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292100013		
法人名	株式会社 ユリの花		
事業所名	グループホーム ユリの花		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字深浦字吾妻沢13番地1		
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果市町村受理日	平成25年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の声に耳を傾け、業務のみにとらわれることのないよう、コミュニケーションの時間を多く取り入れている。 日々の利用者の望みを把握し、楽しんで生活していただけるように、季節の食材を使った食事づくりを行っている他、外出・ホーム内行事等を通じて、地域の方々との交流を図っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が住み慣れた地域で介護サービスの提供を受けながら、地域の行事に参加したり、地域の一員として生活できるように支援している。 管理者及び職員は、ホームの理念を常に意識しながら日々のサービス提供に努めており、利用者が笑顔で過ごすことができ、望みが叶えられ、家族のように寄り添えるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユリの花独自の理念に基づき、方針や目標を全ての職員が理解している。利用者や家族が見やすく、わかりやすいように掲示し、理念に基づいたサービスを提供できるよう努力している。	理念にホーム名を用いて、わかりやすいように工夫されており、玄関やホール、事務室等に掲示し、日常的に意識できるように取り組んでいる。また、管理者及び職員は理念を理解し、利用者が笑顔になれることを大切にしながら、家族的で明るい関係を築けるように実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出行事の他、利用者の希望を取り入れながら、買い物や馴染みの美容院等へ外出し、地域との繋がりを図れるようにしている。	地域の行事に利用者と職員が共に参加し、地域住民と交流を図っている他、町内で買い物をする中で、昔馴染みの人と再会する機会ともなっている。また、地域住民からは季節の花の差し入れや保育園児の訪問等があり、地域との繋がりが継続できるように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者の受け入れやボランティアの受け入れを通して、認知症について地域の皆様に理解していただけるよう取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、地域住民の方々の助言をいただき、利用者のサービス向上に活かしていけるよう努力している。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、自己評価及び外部評価の結果やホームの現状報告を行い、今後の取り組みについて助言を受け、サービスに反映させている。また、会議終了後には、メンバーの都合を確認しながら次の開催日を決定し、積極的に会議に参加していただくよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村役員、地域包括支援センター職員が参加しており、ホームの実態を理解していただき、協力していただけるよう取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、会議の終了後等にも助言をしていただいている。また、市町村の担当者とは、ホームの運営に関する相談や福祉サービス利用に関する連携を図り、日頃から協力関係を築けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何か、全職員にマニュアルを配布し、ホーム内での研修を行っている。玄関にはセンサーを取り付け、外出希望時は付き添う等の支援を行っている。	マニュアルを作成して全職員に配布し、研修を行って、身体拘束の内容やその弊害について理解している。夜間以外は施錠することなく、自由に出入りでき、必要に応じて付き添う等の支援を行っている他、やむを得ず身体拘束を行う場合には、家族等からの同意書等の文書で記録を残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように細心の注意を払い、防止に努めている。今後も学ぶ機会を持ち、日々の何気ない言葉や行動に気をつけて、虐待防止に努めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護の対象者はいないが、必要な時は支援していきたい。ホーム内でも学ぶ機会を持ち、サービスの質の向上に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、重要事項説明書等で施設の方針や支援を理解していただけるよう説明し、利用者や家族の希望・不安を取り入れ、精神的負担の軽減に配慮したサービス提供ができるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対し、利用者の日常の様子がわかるよう月刊誌等で報告している。運営推進会議で家族の意見を反映できるようにしている。	利用者及び家族の意見や要望を把握する機会を日常的に設けている他、運営推進会議のメンバーには家族代表も含まれ、ホームの関係者以外にも意見を話せる機会を確保している。また、出された意見等の処理手順も整備されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや定例会等で、職員の提案や意見を聞く機会を設けてサービス等に反映させるよう取り組んでいる。	日々の気付いたことや利用者の受け入れについて、月1回開催する定例会等で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、サービス等に反映させている。また、隣接する施設への異動については、必ず職員の意見を聞いて配属する等、利用者との馴染みの関係にも配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、就業規則に基づき、職員のやりがいや向上心が持てる職場環境となるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、ホーム内で一人ひとりが課題研究を行い、職員・職場へのスキルアップに繋げていくように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流会を通して、利用者・職員との情報交換を行い、サービスの質の向上に反映できるように継続していきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自室にてゆっくりと話せる機会を持ち、安心して生活していただけるよう不安や要望等を聞き取り、個々のペースを保ちながら生活できるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、話をしっかりと聞いて理解し、受け止め、家族が安心して利用できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今何が必要なのか見極め、できる限りの対応を行っている。必要に応じて他事業所(他施設、居宅、包括)と相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の希望・要望等を取入れて、食事の下ごしらえを行っている他、本人の意思確認をしながら、ホームの掃除や食事の後片付け等に協力していただき、支え合いの関係を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会時等、話をする機会を持ち、家族の思いを聞いたり、時には職員にも相談しながら、一緒に支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の自宅や近所にドライブに行き、本人の自宅に咲く季節の花や野菜等を採ったり、近隣の友人・知人に会いに行き、友好的な関係が築けるよう支援している。	日頃の関わりの中で、これまでの馴染みの人や場所を把握するように努め、知人への電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また、これまで利用していた理・美容室の利用を支援する等、関係を継続できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活歴や趣味・特技等を把握する努力を行っている。孤立しないような空間づくりに配慮し、生活を楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居のほとんどが入院若しくは入院中の死亡だが、入院時のお見舞いや電話連絡等を行い、関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い希望に沿うよう努めている。本人や家族とどうすればよいか一緒に考え、相談しながら支援している。	普段の会話や関わりの中で、利用者の言葉をそのまま記録し、職員間で情報を共有しながら、思いや意向を把握している。また、家族が面会に訪れた際にも、適宜情報を収集する等して、利用者の思いや意向を把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境等を馴染みの言葉で本人・家族・関係者より聞き取り、その内容を、プライバシーに配慮しつつ共有し、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個性や生活歴等を把握し、個々に合ったペースで日常生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望・意見を踏まえて職員で話し合い、説明・同意を得た介護計画作成を心掛けている。	家族の面会時に意向の把握に努めている他、担当職員を中心に、利用者の身体状況や意向等を把握している。また、担当職員とケアマネで情報を整理し、定例会にて関係職員で十分に話し合い、介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や関わりを話し合い、共有しながら、ケアの実践・見直しに活かしているが、記録の書き方をもっと詳細にする見直しが必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物・美容院・自宅等の外出支援等、利用者・家族の要望の状況に応じて柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民や近隣の方に行事等の参加を呼びかけたり、参加や協力をしていただいている他、ボランティアの受け入れや保育園児に訪問に来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の身体状況を把握し、必要時は受診や往診していただけるよう連携を図っている。利用者の日々の健康状態を把握し、受診時に医師に伝え、また、専門医の紹介もしていただいている。	入居前から同地区にある医療機関を受診してきた経緯があり、職員が付き添い、必要時における連絡体制を整える等、医療機関との連携を図っている。また、専門医への受診は、町外は家族が付き添い、ホームと情報を共有する体制がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、毎日、バイタルチェックを行い、個々の健康状態の把握に努め、職員全員で健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と、早期退院に向けた話し合いを行う体制は取れていない。入院が必要となった際は、家族を含め、協力医療機関と話し合いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では看取り看護は行っていないが、今後検討していきたい。	現時点では、重度化や終末期の対応は行わないというホーム方針を明確にしている。そのため、状況に応じて家族と話し合い、他の施設サービスの紹介や情報を提供する等、利用者や家族が安心できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成されているが、全職員が応急手当や救急救命の訓練や研修を受講できるよう、今後も継続して取り組んでいく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対し、全職員が避難できる方法を身につけることができるよう、年2回の訓練を実施している。また、地域の協力が得られるように、運営推進会議において協力の依頼を行っている。	日中だけでなく、夜間想定避難対応策も作成されており、年2回の避難訓練は職員と利用者が一緒に行っている。また、災害時の対応として、消防署や運営推進会議のメンバー等にも協力を働きかけている他、非常食や飲料水等の備蓄もなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動を否定したり、拒否せず、一人ひとりの意向に配慮した呼び方や声掛けを行い、対応に注意している。	日頃から、利用者への接遇に関して気付いたことを職員間で話し合い、適切な対応ができるように取り組んでいる。また、一人ひとりに配慮した呼び方や声の掛け方等の工夫がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の会話を通して、希望や好みを把握し、家族に教えてもらったり、できる限り本人に選択していただけるような対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、利用者一人ひとりに合った支援を心掛け、その日の身体状況や精神状況に合わせてリズムで日常生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望の美容院に行ったり、髪染めをしている他、化粧をする等しておしゃれを楽しんでいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を周知しており、苦手な物には代替食を提供したり、季節に合わせた調理の工夫を行っている。きざみ食等、一人ひとりに合わせて提供している。	苦手なものには代替食を提供し、調理方法を工夫したり、季節に合わせた食材で献立を作る等、食事が楽しめるように工夫がなされている。また、利用者は、できる範囲で調理や盛り付け、後片付け等を協力しながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士から助言や指導をいただき、バランスに配慮した献立を心掛けている。水分摂取量がわかるようにチェック表を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の洗浄や歯磨きを行い、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心に配慮しながら、尿意・便意の確認を行っている。トイレ等での失敗の際は、プライドを傷つけないように配慮しながら行っている。	利用者毎に排泄の記録を作成し、見守りや適宜声掛けすることで失禁を予防している。また、リハビリパンツ等を使用している利用者については、状況を話し合いながら、今後の対応について検討がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や歩行運動を取り入れ、個人の排泄パターンを記録して、食事の工夫や水分補給を心掛けている。また、医師に処方していただいた下剤を、個々に合わせた使用量で便秘時に服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決めているが、汗をかいた時や調子が悪くて入れない方は、調子の良い時等に曜日に関係なく入っていただいている。また、一人で入りたい方には、一人ずつ入浴介助を行っている。	週2回、午前中に入浴することができる他、順番は決まっておらず、その日の利用者の意向や体調に合わせて行っており、気の合う者同士と一緒に入浴できるような取り組みもある。また、入浴日以外でも、シャワー浴は利用できる体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を活かし、好きな時間に休んでいただいている。寝付けない利用者には、無理に寝かせずに話を聞いたり、お茶を一緒に飲んで過ごしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋等で職員で周知しており、服薬の変更があった場合は、申し送り・記録で伝えている。症状が変化した際は、主治医や看護師に報告を行い、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から個々の楽しみ事や趣味、特技等を把握しており、一人ひとりの力を活かした役割ができるような場面づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望やその日の天候に合わせて、その都度、ドライブ、買い物、散歩等を行い、気分転換が図れるよう支援している。	天気の良い日は近所を散歩している他、行きたい場所を把握して外出先を利用者と話し合いで決めており、外食等も楽しめるように支援している。また、健康状態を確認し、負担のかからないように配慮すると共に、職員での対応が難しい場合には、家族に協力を求め、出掛けられるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持って居られる方もおり、希望の物を購入できるように、共に買い物に行っている。また、家族よりお小遣いを預かっている方は、買い物時は本人が支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望があればかけ、かかってきたらお繋ぎしている。遠くにいる家族には、本人のホームでの様子を写真に納め、有する力に応じて手紙を書いて送る等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度調整を行い、音の大きさや日差し、照明等に配慮している。ホーム前には、季節の花を植えたり、壁画の工夫をしている。	共有スペースには、椅子やテーブル、ソファやテレビが設置されており、利用者が自由に寛ぐことができる。温度・湿度計にて確認し、加湿器等も使いながら、適切な状態を保てるように工夫がなされている他、季節の花や制作した壁画を飾る等して、季節を感じられるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを観たり、居室でテレビを観たり、思い思いに過ごしていただいている。仲の良い者同士、個人の居室で集まって話をしたり、ソファで寝るのが好きな方がいたり、自宅にいた時の習慣を継続していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物や愛用品を持ち込んでいただき、ホームでの写真等を飾り、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけ、タンスや家族写真、使い慣れた布団や枕等の持ち込みがなされている。また、持ち込みが少ない場合には、職員も手伝いながら、ホームでのスナップ写真等を飾る等の工夫も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合った能力を引き出し、できる事を活かし、少しでも自立した生活が送れるよう支援している。		